

ジョルジュ・ルオー — かたち、色、ハーモニー —

パナソニック汐留美術館 23.04.08～06.25



開館 20 周年記念として開催される本展は、19 世紀末～20 世紀前半にフランスで活躍した最も革新的な画家のひとりである「ジョルジュ・ルオー」(1871～1958) の回顧展である。画伯自身が芸術を語るのに繰り返し用いたことば「かたち、色、ハーモニー」をキーワードにしている。画家が影響を受けた同時代の芸術や社会の動向、二つ大戦との関係にも触れながら、装飾的な造形の魅力に迫る企画での開催で、パリ・ポンピドゥー・センターやフランスの美術館から本邦初公開を含む「13 点」の代表作の傑作が来日する。

展示作品は、画伯の代表作が集結するもので、絵画作品や「ルオーの手紙や詩な」ど、本邦初公開作品を含む「約 70 点」が展示されている。

- ジョルジュ・ルオー 《二人組(二兄弟)》ポスター図 1948 年 油彩
 - ジョルジュ・ルオー 《かわいい魔術使いの女》 1949 年油彩 下左
 - ジョルジュ・ルオー 《ホモ・モミニ・ルプス》 1944～48 年油彩 下右
- 《人間は人間にとって狼である》

画伯の晩年の作品は、穏やかな光輝くようなものが多いが、この残酷な場面を描いた作品は、第二次世界大戦の悲劇の所産とされる。男が絞首台につるされて、遠くで家が燃え上がり、月は不気味に赤く輝き、白い星は希望を示すものとされる特異なもので、犠牲者の白い衣は無罪の印の象徴であろうか。

